

Japan Steel Bridge Competition 2016

28 8 31 28 9 2

(1)

(2)

P R

20

<

(<http://bri.com.jp/>)
300

20

鋼材の購入から作製（溶接や部材切断等）、解析など学生が任
事した。橋梁作製の過程では、フェニックス工房の職員の方に
行なうことができました。
大会は、運営本部が定めるルールに基づき、学生が自ら設計
した部材を用いて、会場にて架設を行う大会です。大会では、
大会の美しさ、設定されたたわみ量と橋梁模型のたわみ量の誤差、プレ
ゼンによる橋梁の
当日は、21 チームで約 300 人が集まり、競い合いました。
架設の様子やデザインを見ることで新たな発見や問題点
も発見されました。また、懇親会も開催され、普段接すること
のない他大学の方と交流することができ、刺激
の強い大会となりました。

業を分担し、効率よく補助をしていただき
・解析を実施し、架設のスピード、プレ
ゼンによる橋梁の
競うだけではなく、他
をみつけ、構造力
ない他大学の方と
ことができ、刺激

行安
を目な
学勉交り
大のをな

(裏面に続)

アンケートの結果（来場者にアンケート

成果・課題

架設時間については、ボルトの数を削減した結果、架設部門で3位入賞をイヤーロープを使用し、よりシンプルにすることができました。

たわみ量については、昨年の反省を生かして目標を定めました。本番ではたわみが目標を達成しました。また、総合部門でも、目標として掲げた数値を達成しました。

JSBCは橋梁模型の構造部門（たわみ）がチームより大きくなってしまい、総合部門でたわみ量を限りなく少なくすることができませんでした。

実施風景（写真）



【提出方法】指定された期限までに本紙を制作の上、E-mailでも受け付けます。

【提出先】工学部学生支援室 (kou-gaku-gakubu@)